

湯郷渡・下母畑・上母畑の3サロン !!

10月1日(火)湯郷渡サロン 15名 参加 講師 井上 真由美(リードシステム)、8日(火)下母畑サロン 13名 参加 講師 山下 洋子、添田 美恵子、添田 京子(健康リーダー)、11日(金)上母畑サロン 13名 参加 講師 滝川ハルイ、岡部 茂登子(健康リーダー)の3サロンでは、脳トレ、健康体操、笑い体操等で健康寿命を延ばす為に指導して頂いています。



湯郷渡サロン



下母畑サロン



上母畑サロン

文化祭・カカシまつり“ヤムナグ”中止!!

10月18日(金)文化祭・カカシまつり第2回実行委員会にて台風19号による被害を受けている箇所があるのにイベントを開催するには問題があるということで自粛し中止を決定した。



R1.10.18 第2回実行委員会



昨年の文化祭1コマ



昨年のカカシまつり1コマ

11月の行事

- | | |
|--|--------------------------|
| 5日(火) 9:30 湯郷渡サロン
講師: 山下 洋子、阿部 とも
(健康リーダー) | 13日(水) 18:00 民謡教室 |
| 8日(金) 9:30 上母畑サロン
講師: 円谷 礼子(中島リパティ) | 14日(木) 13:30 ハーモニカ教室 |
| 9日(土) 9:00 北須川溪谷ウォークラリー | 15日(金) 9:00 食生活改善伝達料理講習会 |
| 9日(土) 13:30 書道教室 | 16日(土) 13:30 書道教室 |
| 12日(火) 13:30 下母畑サロン
講師: 宗形 修理(中島リパティ) | 19日(火) 13:30 きたす会 |
| 13日(水) 13:30 白菊学級 | 23日(土) 8:00 自治協議会理事会移動研修 |
| | 26日(火) 13:30 きたす会 |
| | 27日(水) 18:00 民謡教室 |
| | 28日(木) 13:30 ハーモニカ教室 |
| | 30日(土) 13:30 書道教室 |

編集後記 先月の100年に1度の台風19号被害に遭われた方々、片付け等で毎日大変だったと思います。これから先も同様な災害が発生するかも知れません。日々、家庭内で非常時対応についての話し合いをして見ては如何でしょうか。

母畑自治センターだより

教育日標

令和1年 11月

第556号

母衣方旗

「輝け!

母衣旗」

今月の題字 (273) 小3 関根 羽海 さん

発行日

令和1年11月1日

発行所

母畑自治センター

責任者

センター長 瀬谷 長一

台風19号による被害甚大!!

大型で強い台風19号が12日夜から13日朝に掛けて石川地方を襲った。石川町役場では、阿武隈川の支流にあたる北須川が氾濫して洪水の恐れがあるということで自主避難指示を出した。被害の恐れがある方は、クリスタルパークの総合体育館と各地区の自治センターへ避難するように指示が出された。母畑地区で避難した方は、総合体育館に10家族31名、母畑自治センターに16名、親戚等6家族15名で総勢62名でした。

翌日(13日)台風が通過して、家屋の被害状況を確認したところ、母畑地区では、区長さんが調査した結果、床上・床下浸水...母畑第一区19戸、湯郷渡区...6戸で合計25戸。土木災害...母畑第一区5ヶ所、上母畑区7ヶ所、湯郷渡区3ヶ所、北山区10ヶ所で総合計25箇所。その外、北須川に架かる栄橋等が流された。



稲はもと、河岸、沼辺などに野生せる植物にして、これを久しき間栽培改良したる結果、現在の如き多数の品種を生ずるに至れりとゆう。稲の栽培は、一主として水田に行われ、時に畑に栽培するもあり、水田に栽培するを水稲といひ、畑に栽培するを陸稲と云う。米は我々の主要食料にして、米なくして我々は、一日も生活する事、あたわざるべし。されば我が國に於ては、出来得る限り、耕地を水田になさんことをつとめ、狭き土地にても、水利の便のゆるす限り、稲を栽培せんことに心掛くるを常とす。稲は水分を必要とするものなれば、水田は土地に高低少なく廣くして水利の便よきところを最も適當とす。

故に石川郡に於て、水田の最も多きところは、泉村、小塩江村、澤田村等にして、阿武隈川に近き平たんなる地方に多し。我が村の水田は約三百四十町歩の面積を占め多少村外に移出さるゝ、もゝありといふども、他村より移入さるゝものもまた少なからず。されば我村は益々水田の改良を計り、増収の法を研究するの必要あり。我村の地勢は村内ほとんど丘陵にして、水田はこの丘陵間の低地、谷間に於て、小川に沿へ、あるいは泉の下方にして、山と山との間に、階段状をなして、ひらかるゝもの多し。故に、下段より上るにしたがひ、面積は徐々に小となり、最上の地にあるものは、水田またはその附近に泉を發見せざるはなし。水は最も高き所の田より順に、うるおして下に下り、遂に川または堀に注ぎ北須川または今出川にあつまりて流る。我村にては二毛作をなしうる水田は極めて少なし、平素水を貯えざれば植付をなし得ざるによるなり。國內の米の産額は約六千万石にして、この産額を以てしてば、國內の需要を充すに足らず、年々支那、印度支那等より輸入する事、實に約四百万石に達す。故に我々は常に水田の開發につとむると、もに、栽培法を研究し、一畝の先に國民を養うの心を以て農事につとむべきなり。

第六課 煙草のし

納付がせまつたので家中目がまわる程忙しい。今日は日曜なので、一家みんなで葉煙草をのさなければならぬ。今日はお母さんとお父さんがおつしやつた。去年の納付の事が頭に浮かんで来る、父母や姉達が朝の光をあびながらきれいに荷造りされたのを負つて行く姿……専賣局……石川町……お土産など、今年は何を買つて頂けるかしら、帽子、シャツ、帳面、次々と一人ほゝ笑みながら、考えていると、うしろで「千代ちゃんもう初めよう」とかん高い声でよばれてはつと我にかえつた。そのうち組の人も四、五人来て下さる。家は大そうにぎやかになつた。二人つゝ組なので、私と弟は大きい人と組なければならぬ。二年生の弟は、うちのおばあさんと組み私はお母さんと組んだ。かさかさとう音が絶えず聞える。弟ももみぢのような手でおばあさんのお相手をしている。

いろり火はとろとろと……猫はこだつの上にもるくなつて、のどをならしている。段々と色々なお話が始まつた。隣のおじさんが「こんどこの村が一番取れるかな……母畑でも負けたくないもんだ」といつたのでみんなも「ほんとうになあ」と合つちを打つた。又かさかさとゆう音のみになつたので、どこの国からこんなものを作り初め、誰が先にすいた始めたのだらう……どこでも家のと同じのをつくるのかしらと思つて、お父さんに聞いて見ると「煙草はね、もと米國の土人が吸つたり、かんんだり、かぎこんだりしていたとゆうことだ。それから西印度諸島も原産地であつて、歐州へは、千五百五十八年イスパニヤに輸入したのが初めて、その次にフランス、イギリスに傳つてもなく歐州全土にひろがつてしまつた。支那には萬歴年間に呂宋から移入し、我が國では元龜の末から天正の始めにポルトガル人が持つて來たのだ。天正の末にはもう方々にひろまつたのだよ、しかしこれを作つたのは慶長十年で南蠻船によつてもつて來られた種子を、長崎の櫻島とゆうところに植えたのだが、そののちどこにでも作られるようになった。鹿児島縣の国分、出水、掛宿、垂水、茨城縣の久慈、神奈川縣の秦野などは昔から本場として名高いのだ。煙草は作る土地によつて特別の品種があるのだよ、今我國各地で作られている。なものを上げて見ると、国分、出水、水府、達摩、霜草、桐ヶ作、この他、鹿児島縣の掛宿、垂水、丸葉、岩手縣の南部、福島縣の松川、新潟縣の薄葉、岡山縣の備中、廣島縣の備後等は名高く、又米國種のエローオロノコは兵庫縣に多く作られていて」とくわしく話してくれた。弟の秀ちゃんをよくわからなかつたが達摩なんておもしろい名だと笑つていた。こんど隣のおじさんが「松川つてゆうところ知つているかい」とゆうから「東白川にあるのでせう」といつたら「よく知つているな」といつた。「秀ちゃんにもよくわかるように面白く松川葉の身の上話をしてやろう」とおつしやつた。弟はにこにこしていつた。おじさんはポツリポツリと語り初めた。「東白川郡の宮本村大字松川とゆう所に一家三人暮しの家があつた。或日坊さんが托鉢に來て、ふところから一尺位の棒を出して、もやもやした草のようなものをつめ、火を一寸つけて吸つたのだ。すると部屋中よい香りがしたので、お父さんが不しぎに思つて聞いて見るとこれは煙り草とゆうのたといつた。そのお父さんは自分もすつて見たくなつたので、もらつて吸つて見ると、なる程おいしい味がする、ぜひ作りたいからといつて坊さんに種子を頂きたいといつたのだよ、すると、今こゝにないから今七日も待つていたら持つて來て上げるといつてかえつてしまつた。樂しみにして待つていつると、約束通り……種子を半紙に包んで持つて

9月28日(土)交通安全テント村:母畑地区交通安全支部

9/28(土) 10:00~母畑自治センター駐車場にて交通安全協会母畑分会(分会長 平田文男)と母の会(会長 関根仁美)では、石川警察署の協力の下、県道を走るドライバーに安全運転のお願いをし、母の会のメンバーは運転手に粗品を渡しなが「安全運転」と「シートベルト着用」をお願いしていました。



安全運転のお願いをする母の会のメンバー

10月8日(火)高齢者学級:町の新しい施設見学

10/8(火) 9:00~高齢者学級11名参加の下で、町の新しい施設(モトガッコ、鈴木重謙屋敷、石川町役場) 見学会を行いました。



モトガッコにて



鈴木重謙屋敷にて



石川町役場にて

それを知つた近所の人達は、俺にも分けてもらいたいといふので少しづつ分けてやりました。ところが今では福島縣全部にひろがつたのです。」と話して下さつた。秀ちゃん「ちや、うちのもその種子でつくつたのだね」といつた。おじさんは「よくわかつたね」とおつしやつた。秀ちゃんは「何思つたのか、今でもその家があるの」と聞いたらおじさんは、「うん、一番先に作つた人の畠は今も四畝程あつて、その土地は、少しも肥料がいらぬそうだ。それで今その土地を保存するために、五寸角の木で柵を廻らし、大切にしておくそうだよ。煙草作りに熱心な人はその土をゆづりうけて肥料につこうそうだ」と教えて下さつた。おじさんは又色々とお話を始めた。「どんな上等な煙草にこの松川葉が入るんだらうな」といつた。上手に作れば一本五錢位につくそうだ。一反歩には、五千本も植えるそうだから、随分収入があると思つた。全部出來て納付までには一年と二ヶ月もかゝるのだから、どんなにかこの煙草には、血と汗がこもつてゐるのだと思つた。秀ちゃんももうつかれたらしく、いろりのそばで火をもして休んでいた。部屋にはまだ、煙草が山のように積れてある。この村でも一番多くつくる人は、千三百円からの収入があつたそうだ。會津方面から二十万貫この金額が五十四万円で石川郡は二十六万貫この金額七十五万八千餘円、福島縣下で最も多く取れるのが田村郡で石川郡は第二位であるといつていつた。まだお手傳の人は一生けんめいだ、私はつかれたので秀ちゃん

次号は『第七課 氣象と』

